

2023.7月

銀の汗 Again

A面

初・五島列島UN上陸



UN現場



五島列島と長崎を結ぶフェリー(3時間20分所用): 太陽光パネルが満載の、特別養護老人ホーム屋上2,800㎡

銀45号「そして神戸」に続く46号「長崎は今日も雨だった」をお届けします。

「フェリーで行くには、遠距離割増どうしたら、よかですか」

と、九州の倉富OPから連絡があったのは4月の終わり。長崎県の五島列島で2,800㎡の現場があり、海路(実費)を利用しての施工となりました。

長崎県から西方100キロ先に浮かぶ大小152もの島々からなる五島列島釣り人の聖地、五島列島の現場は、特別養護老人ホーム「きじの里」屋上には太陽光パネルの架台が敷き詰められていました。

施工店様も、もちろんフェリーで上陸しますが、施工日が近づくと台風2号発生のニュースが流れました。天気予報を確認し、フェリーの予約を行い初日は、3名しか職人さんが来れず、太陽光架台の影響もあり夜7時過ぎに施工を終えました。上陸3日目は雨で施工中止となり。

明後日、4名の職人さんは全員フェリーで帰るとの事、どうしても明日中に施工を完了させなければなりません。自身のフェリー乗船を、日曜日に変更した倉富OPは、近所のスーパーで驚きの300円で売っていた新鮮な刺身の盛り合わせ2つとビールで最終施工のイメージトレーニングをし、最後は男梅缶チューハイで締め。翌5/27日、完璧な施工でES-AK25Tサーモ工法を終えることが出来ました。施工後、五島列島の地でも「UNは楽で、早くいいね、また絶対使うよ」と言って頂けました。



(株)ヤマケン様

再びの岩木山、再びの津軽



お岩木山で手を振れば
あの子は小さくなずいた
帰って来いよ帰って来いよ
帰って来いよ～



お岩木山方面に向かうUNマシン



昨年と同じ現場、湖水荘



丁度、1年前の2022年6月に初・青森県物件としてUN施工を終えた、同じ現場、同じ施工店様から(銀の汗Again35号参照)今度は、是非ベランダでUNマシンを使用したいと連絡があり、一路オペレーターは700キロ走行。

「帰ってきました～」と大きくうなずきました。

空気が澄んだ、青空がスッキリ碧い、そして何よりも職人さんの瞳が輝いている介護老人福祉施設「湖水荘」のベランダ900㎡。

1層目は10時スタート13時終了し、「ありがとごす～」

翌日、2層目も素早く終え

「ありがとごす～、へばな～東京でもけっぱれ～」と手を振っていただけました。

「必ず、1度ご使用いただければリピーターさんになるUNマシン」

OPは全国のマーケットに想いを馳せ、きつくハンドルを握りしめました。



(土産は絶品煮干しラーメン)

2023.7月

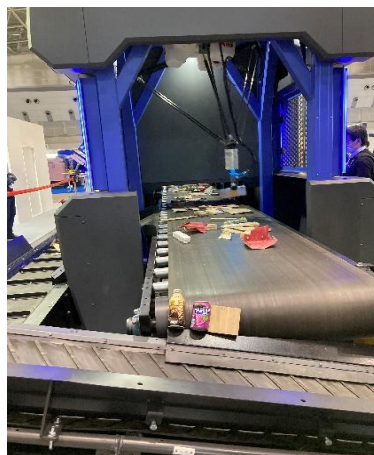
B面

銀の汗 Again

AI搭載廃棄物選別ロボット



過酷な作業環境の中、人間の目と手作業で
廃棄物の選別



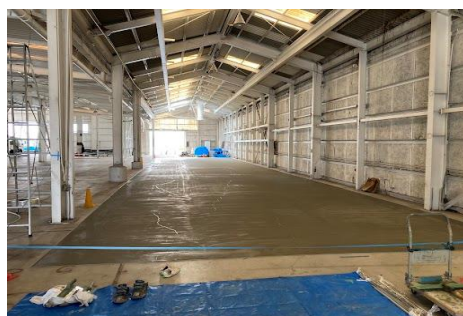
センサーが認識して、素早く選別（しかもデモはベトナムからの遠隔操作）



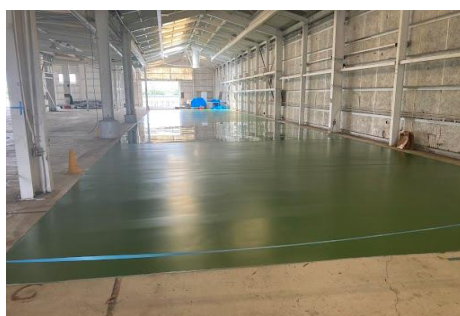
以前、産廃中間処分場を見学させて頂いた折、仕分けをする現場にも立ち会い、その過酷な現場を見て、いつか機械で仕分けができればいいのにと考えていました所、2023環境展で、「ウラノス」というマシンがセンサーとインターネット技術で遠隔操作の仕分けが出来るデモを見学しました。「そうそう、こんなイメージ」と、素早い仕分け作業を見ていました。

今後、日本は人口減少=現場作業員不足は決定的な出来事です。その中で**機械化・省力化は時代のキーワード**になっています。約20年間で、ウレタン圧送UNマシンは200万㎡(東京ドーム43個分)を超える実績とノウハウを構築してきました。機械化・省力化の大きなひとつの鍵は、そのマシンの総合的なメンテナンス体制がキモになります。UNチームとして体制が整ってきました。

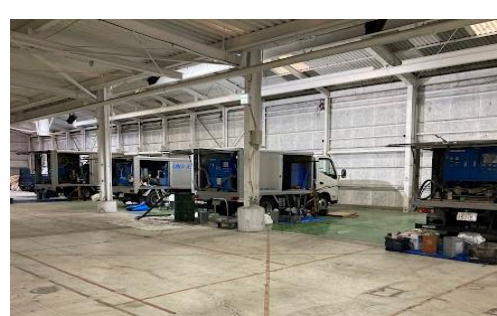
【キモ】UNメンテナンス基地に床材施工済



研磨後プライマー塗布



床材施工



UN車両配備

新木場にUNマシンのメンテナンス基地が完成しました。営業推進部として現在、UNマシン4台、空ドラム回収可能な産廃車両1台、当社のみが扱える材料の吹付マシン1台配備。(油污れ対策の床材施工完成)

今後更に、現場施工の省力化や効率化により、施工店様の労務負担軽減やコスト削減の実現に、お役に立てるようにマーケットの声に耳を傾け、様々推進に取り組んで参ります。ウフ

UNマシン.COMサイトが起ちあがりました

www.un-machine.com

yahoo検索ワード第1位(ウレタン・省力化など)

ブログ銀の汗にUNの活動状況一部掲載しています 銀の汗バックナンバーも掲載

UNマシンにて検索

【sweat of silver】

今、浅草の路上ライブで大人気の、昭和の流行歌を演奏する4人組バンド「東京大衆歌謡楽団」

その楽団が近所のホールにやって来て550名満席となり、周りは後期高齢者が溢れかえっていました。昭和20年代の歌は、さすがに初めて聴く歌も多く、わからないと思いながら、昭和のヘアスタイル、直立不動の歌い方、お辞儀の仕方、進行者アナウンスの声などアキッと当時はこんな感じだったんだろうな・と想像できました。しばらくすると少しテンポのある曲が流れました。すると突然前2列が同じ手拍子と簡単な振り付けで、後期高齢者魂を爆発させたアクションを起こします。そして何故か帽子を持った相撲部屋の女将さんのような方が、その帽子を裏返してチップ(万札)を入れたのです。そうすると前列の方々が次々と渋沢栄一様を入れ始めました。ボーカルの方が、お心使いありがとうございますと帽子を舞台の袖に持っていき、今度は花束や手土産を舞台に持って行きました。完璧な、おっかけファンだと確信しました。そして思いました今80歳でも20歳でも、自身が中高生の多感な時期にファンになった歌手は絶対いるはずだ、そしておっかけをしたこともきっとあるだろうと、中学生の時、山口百恵にファンレターを出した自身を思い出しました。(最近、森高千里と矢沢永吉コンサートに行きました)

でも、この楽団は、なかなか賢いと思いました。ターゲットは完ぺきに75歳以上の、あふれるタンス貯金をお持ちの女将さん達です。

女将さん、姐さん、大ママさんらしきコアなマダムがファンとなって後押しして、昭和のメロディが流れます。昭和39年の名曲「ああ上野駅♪」が流れると涙ぐむ姐さん、「青い山脈♪」では大ママが仲間と合わせた拍手をしています。20曲以上のコンサート終了後妻に、どう？聞くと、3曲しか知ってる歌が無かったと、俺は7曲と答え、すべての人に青春があるんだと感じいた次第です。